

## ミャンマーからタイへの移住者が急増

2024年11月8日

ミャンマービジネスサポートデスク 西垣 充

2021年2月1日に発生した国軍によるクーデターの影響で、ミャンマー国内の経済は低迷しており、富裕層が資産を国外に移す動きが加速しています。さらに、2024年2月10日に発表された、国民の強制徴兵を可能とする「人民兵役法」の施行により、徴兵を避けるため隣国タイへ移住するミャンマー人が急増しています。

Media Intelligence Group (MI グループ)が行ったタイにおけるミャンマー労働者の行動調査によると、現在、タイには約680万人のミャンマー人労働者がいるとされ、その多くは未登録労働者で、労働許可を得ているミャンマー人労働者は約185万人です。タイに滞在する全外国人労働者約270万人のうち、ミャンマー人が67%以上を占めていると報告されています。こうした労働者をターゲットに、ミャンマー料理店や雑貨店、ミャンマー人向けのカラオケ店やクラブなどがバンコクで次々と開店しています。

ミャンマーの大手財閥であるヨマグループの麺料理チェーン「YKKO」は、ミャンマー国内で約40店舗を展開していますが、タイに移住したミャンマー人をターゲットに、タイ・バンコクに国外1号店を開店しました。また、タイで人気の日本居酒屋「しゃかりき」も最近バンコクに「シャン料理」の店を開店するなど、タイではミャンマー人向けのビジネスが新たなブームになっています。

以上